平成１８年７月５日
第九管区海上保安本部

問い合わせ先
第九管区海上保安本部海洋情報部
海洋調査課長　増山　昭博

飯田湾南部海域の沿岸測量について

第九管区海上保安本部では、測量船「天洋」により飯田湾南部海域（昭和２６年測量実施）において、海図編集の資料収集のために、最新の機器を用いて沿岸測量*を行います。

１．測 量 区 域　飯田湾南部海域（資料１―１）
２．測 量 期 日　平成１８年７月１１日（火）～７月２９日（土）
３．使 用 船 舶　海上保安庁海洋情報部所属測量船「天洋」（資料１－２）
　　船長　吉田浩平（よしだ　こうへい）
　　ほか２３名乗組み
４．使 用 機 器　マルチビーム音響測深機（資料２―１）、デファレンシャルＧＰＳ測位装置（資料２－２）、水深測量自動収録装置
５．成果の活用　海図Ｗ１１７０号（飯田湾、1/20,000）の改版資料として使用されます。
６．そ　の　他　「海フェスタとやま」に関連して、７月１６日（日）に伏木・富山港沖で行われる海上パレードに参加、　翌１７日(月)には一般公開を行います。

添付資料１―１　測量区域
　　１－２　測量船「天洋」
　　２―１　マルチビーム音響測深機
　　２－２　デファレンシャルＧＰＳ測位装置

*沿岸測量･･･沿岸の航海用として利用される海図を作成するために水深や海岸線等を調査する測量

資料1

１　測　量　区　域

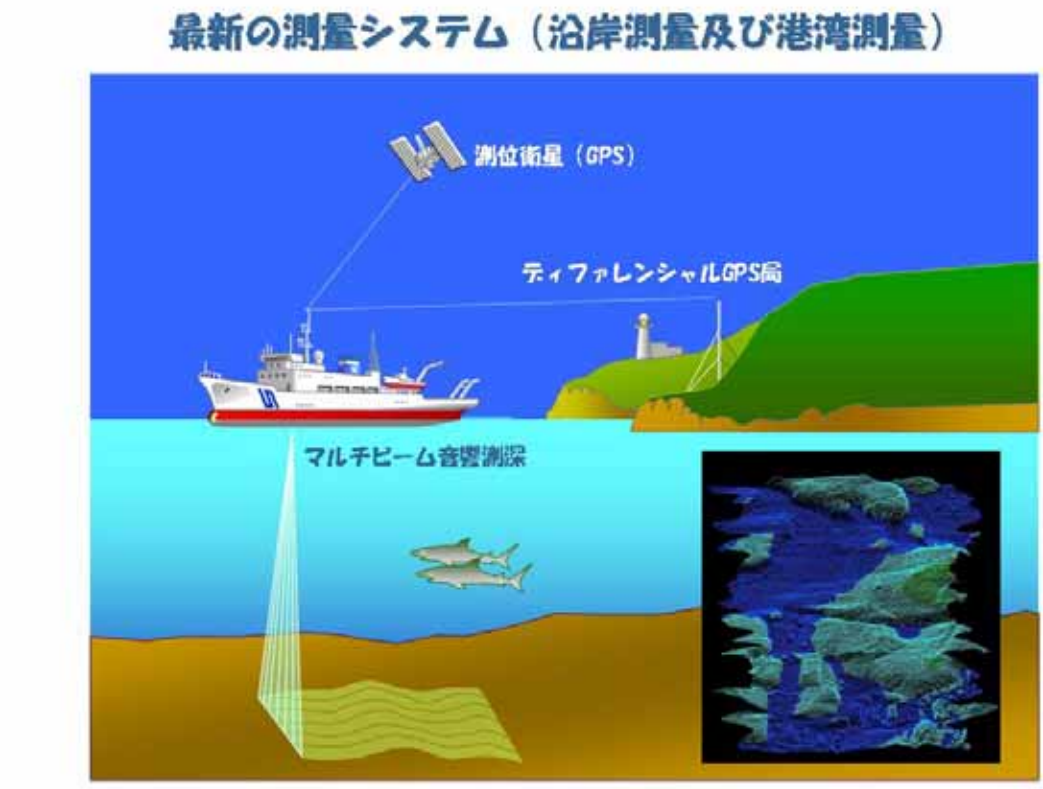
２　測量船「天洋」

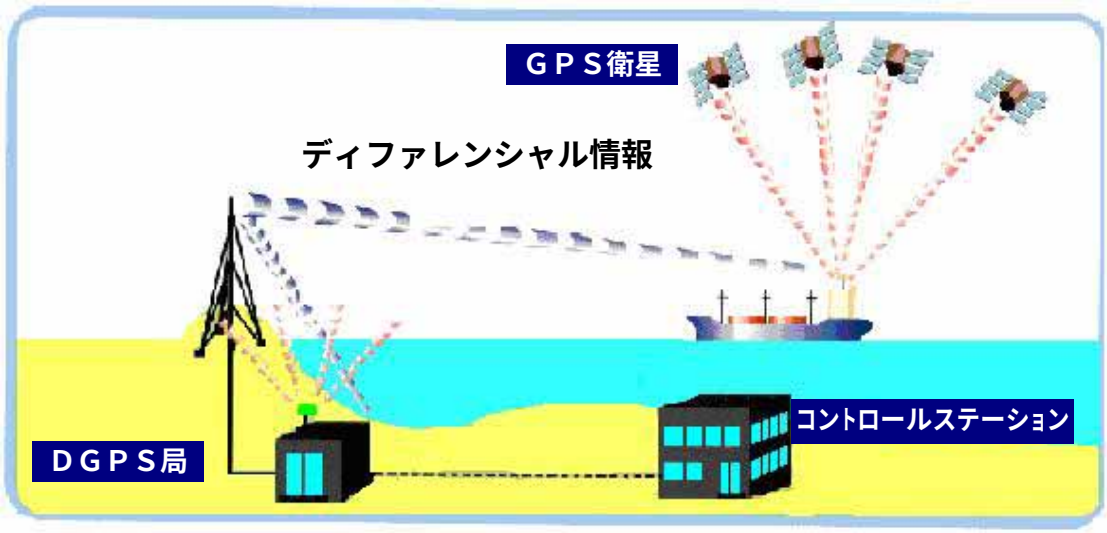
○総トン数　４３０トン
○主要寸法(全長×幅×深)　56.0m×9.8m×5.0m
○速力１３ノット
○航続距離　5,400 マイル
○主要観測機器
- マルチビーム音響測深機
- デファレンシャルＧＰＳ測位装置
- 水深測量自動収録装置
- XBT（投下式連続水温測定装置）
- ADCP（超音波流速計）

資料2

1　マルチビーム音響測深機

　測量船の船底から音波を扇状に発射し、海底からの反射を受け、測量船が航行することにより面的に水深を測る装置。最大で水深の６．４倍の幅（水深が１０ｍなら、６４ｍ）が測深できます。



2　ディファレンシャルＧＰＳ測位装置

　正確に位置が分かっている場所（基準局）でＧＰＳ信号を受信し、このＧＰＳで得られた位置と真の位置との差を計算して、ディファレンシャル情報（補正値）として送信局から放送します。ＧＰＳにより得られた位置をこの情報により補正して、水深の正確な経緯度を決定する装置です。